



写真家(山形県山形市) 小関 一成 さん

私が今年受賞した野生生物写真コンテスト「Wildlife Photographer of the year」は、自然写真のコンテストでは世界最高峰と称されるフォトコンテストの一つです。山形市で写真館を営みながら、休日は東北地方を中心に、自然をメインにした写真を撮影しに歩いています。伊豆沼に初めて訪れたのは6年前の11月。伊豆沼を写真で見、きれいな場所だなと思いを運んでみました。現地に着くと、マガンの鳴き声や羽ばたく音など、生命が満ちている雰囲気を感じました。伊豆沼・内沼のマガンは「残したい日本の音風景100選」にも選ばれている素晴らしい自然の音が聞ける場所だと後で知りました。

また、伊豆沼は民家が近くにあり、人と共存していることで成り立っている自然といった印象を受けました。ごみが落ちていないところも、地元の人たちによって大切に守られているのだと感じました。

その後、仕事の合間を見つけて10回以上通い、今回の作品を撮影することができました。作品では、朝日の美しさに加え、マガンの動きと数の多さから、私が初めに感じた生命の強さを表現することができたと思います。多くのマガンが美しい色合いの空に飛んでいく姿は、今でも脳裏に残るほど、壮大で心奪われる光景でした。

今回、伊豆沼で撮影した作品は、私の人生の中で最も大きな受賞となりました。私にとって伊豆沼は、これまでもこれからも特別な場所。今後も通い続けながら、私自身の活動に生かしていきたいと思っています。

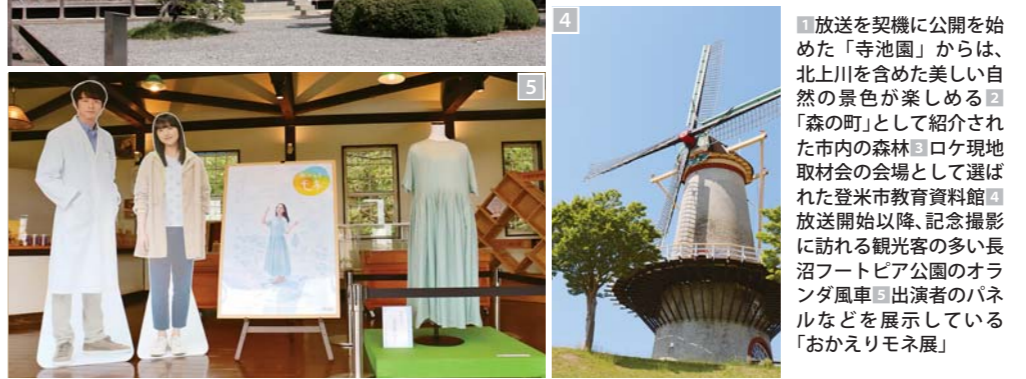


作品名「高揚する夜明け」

## 伊豆沼を題材に国際フォトコンペティション受賞

# 映 Reflect

南北に流れる雄大な北上川を有し、市の面積の4割以上を森林が占めるなど、自然豊かな登米市。NHKの連続テレビ小説「おかえりモネ」でも、森の町として舞台の一つに取り上げられた。また、世界的なフォトコンペティションや高校生の総合文化祭では、登米市の自然や伝統行事を題材にそれぞれ入賞を果たすなど、「登米」には、心の琴線に触れる光景が多くある。



1 放送を契機に公開を始めた「寺池園」からは、北上川を含めた美しい自然の景色が楽しめる。2 「森の町」として紹介された市内の森林。3 ロケ現地取材会の会場として選ばれた登米市教育資料館。4 放送開始以降、記念撮影に訪れる観光客の多い長沼フートピア公園のオランダ風車。5 出演者のパネルなどを展示している「おかえりモネ展」



仙台南高放送部  
鈴木花乃さん(左)  
菅原千奈さん(右)

仙台南高放送部では毎年、全国総合文化祭の放送部門での入賞を目指して、地域のイベントや伝統などから出品する作品の題材を決めています。ジュニアリーダーの活動や丸森町の養蚕業など、部員がおのの案を持ち寄ったときに、東和町米川の五日町地区出身の父をもつ部員が、米川の水かぶりを提案しました。

3年前にユネスコ無形文化遺産に登録されたとはいえ、私たちの周りには、水かぶりのことを知らない人が多くいました。800年以上前から続くこの伝統的な行事を、高校生の視点から多くの人に伝えたいと思ったので、今回の作品の題材に選びました。

ある程度作品のイメージを決めてから実際に2月に開かれた行事に足を運び、保存会の菅原淳一会長へインタビューをしました。私たちは、保存会の皆さんがユネスコ登録に向けてさまざまな工夫してきたのだと推測し、それを中心に制作しようと考えていたのですが、菅原会長から

## 米川の水かぶりを撮影した作品で全国大会最高賞

返ってきた言葉は「いつも通りやってきただけ」の一言。そこで、行事に関わっているさまざまな人へのインタビューをメインに、取材を通して感じた地域の団結を伝えたいと思い、構成を変更しました。お話を聞くために地域の皆さんへ声を掛けさせてもらったのですが、準備で忙しい中、誰もが快く答えてくれました。この地域の温かさや団結力が、伝統文化を支えていると感じ、それが映像から伝わるような構成にした結果、全国総合文化祭で優秀賞を受賞することができました。取材中も楽しく、私たちにあって、大好きな作品と場所になりました。



臨場感ある映像を撮影しようと、人混みをかき分けてビデオカメラを構える仙台南高放送部の生徒

10月29日に最終回を迎えた「おかえりモネ」だが、市では、制作したのほりやポスター、独自ロゴマーク、遠山之里と長沼フートピア公園で開催している「おかえりモネ展」、北上川が見渡せる「寺池園」などを活用し、訪れた観光客をはじめ市内外に、広く登米の魅力を発信し続ける。

5月17日にNHKで放送が開始された連続テレビ小説「おかえりモネ」は登米市や気仙沼市などが舞台の作品。作中で本市は、「森の町」として紹介されている。

作品は、北上川や森林など市内のさまざまな場所で撮影された。撮影開始に当たり登米市教育資料館で開かれたロケ現地取材会で、制作統括の吉永証プロデューサーは、「登米といえば、教育資料館。木造の建物で、そこが登米市の魅力。農業も盛んですが、森林も大切にしているところですので、木を大事にしている登米の表現として、教育資料館も紹介できたら」と、制作に向け登米市の魅力を語った。

## NHKの連続テレビ小説「おかえりモネ」の舞台

